

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300089		
法人名	株式会社 リブレ		
事業所名	グループホーム なつぎ塾	ユニット名	のどか
所在地	〒982-0007 宮城県仙台市太白区あすと長町4-3-25		
自己評価作成日	平成 25年 10月 20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 25年 11月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東日本大震災以来、利用者同士助け合う姿が良く見られるようになった。職員は利用者一人ひとりのできる事や仲間同士の絆を大切に支援を心掛けている。見守りしながら出来ない事だけを支援し、また人生の先輩である利用者の方に教えてもらう姿勢を大切にしている。地域の運動教室への参加や外食を楽しんだり、笹かま館体験等楽しみごとのある生活を送れるようにしている。調理の時には、隣の畑に行き新鮮な野菜を献立に活かす等、季節を感じられるようにしている。畑は被災を受けた一般仮設住宅の人にもお貸しし、日頃から交流を持っている。毎年行っている秋祭りには家族や地域の人、ボランティアが130名程参加し盛り上がるなど、地域の暮らしを協働で支えている。資格取得(介護福祉士・介護支援専門員など)の勉強会も行い、ステップアップできるようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

来春に新築される事業所を、入居者と一緒に見学に行き楽しみにしている。広い敷地内にある畑を同じく被災した一般仮設住宅の方に半分を使って頂き、水やりや収穫等交流の場としている。毎週の体操教室や町内会の行事に参加、ホームの敬老会や秋祭りには家族、地域住民、ボランティアの140名程の参加があり、地域との繋がりは良好である。職員は常時用紙を持ち歩き、入居者の言葉や動作等を書き留め「気づきシート」としてカンファレンスをし、支援に活かしている。家族アンケートに「誠心誠意本人の気持ちを考えて対応してくれています」とある。協力医との連携、看護師との24時間オンコール体制と医療の面でも安心できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームなつぎ塾)「ユニット名 のどかユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員でBS法にて案を出し理念作りを行っている。理念を常に念頭に置き、事業所の理念とユニットの理念をスタッフで共有し行っている。カンファレンスなど理念に沿った対策・方向性を考えている	事業所理念「ゆっくり いっしょに たのしく ゆたかに」から心に思いつくままの言葉を寄せ合って、話し合い各ユニット理念を作成している。毎年3月に振り返り、理念がケアに反映されているか確認し次年度に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ユニット前の畑をお貸して仮設住宅の方々と交流したり、仮設の運動教室への参加や1年を通して地域の方々に事業所の行事の参加(敬老会・秋祭りなど)をして頂いている。また、地域の七夕作りや夏祭り等に参加したりして交流を図っている。地域の買い物にも出かけている	畑の半分を仮設住宅の方が利用し、毎日顔を合わせている。仮設の週1回の体操教室に参加している。ホームで毎年開催する敬老会や秋祭り等の案内状を、入居者と一緒に一軒一軒配布する等交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症についての研修会やグループホーム協議会による研修の情報を地域の方々にお伝えしている。毎月なつぎの便りを発行し地域の方々にお配りし、理解を深めて頂く努力をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開き地域包括支援センターや地域の方々、家族、入居者を含めて、意見交換を行いより良い事業所の運営に生かしている。地域の方々の情報を元に夏祭りなどに積極的に参加をしている	連合会長、自治会長、包括支援センター職員、家族、入居者の参加で奇数月に開催している。包括支援センターの催し物の情報報告、町内会の行事の誘い、ホームの行事の誘いや現状報告等双方向的に話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者各位と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者各位と事故が発生した場合や体制が変更された時など報告を行い、日頃から協力関係を築けるよう取り組みを行なっている。また、見学に来ることもあり、生活の様子などをみてもらっている	介護保険の諸手続きや事故報告等、担当者に相談、助言を頂いている。実施指導やホームの新築移転に伴う打ち合わせ等連携を密にしている。市や県の研修会、包括支援センターの勉強会には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月の勉強会を開いたり、朝のミーティングを通して常に拘束しないようみんなで意識を共有している。カンファレンス等で日常的に話し合いがされ拘束しないケアを意識している。	職員は身体拘束の内容とその弊害を理解し、日々のケアに努めている。気分転換で敷地内を出歩く方には、声かけする等して見守りを行っている。研修委員会があり、月1回「利用者の尊厳を奪わないケア」「なぜ身体拘束はいけないのか」等の勉強会をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝のミーティング時の認知症研修や勉強会を開いたり、外部研修に参加し、虐待防止の意識の向上に努めている。職員同士、声を掛け合い虐待防止に努めている。また無理な介助にならないように職員の協力体制を組んでいる。職員のストレスについてもきちんと話し合いを持ってい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	朝のミーティングで認知症研修や月一回の勉強会を通じて理解を深めている。外部研修に参加したり情報を共有している。外部研修後に伝達研修を行っている。成年後見制度を利用している利用者もあり、成年後見人と情報を共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明(ゆっくり、はっきり)を心掛けている。利用者、家族とはしっかりと話し合い、常に状況を説明したり不安や疑問点を尋ねている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見を出せるように努めている。運営推進会議などでも意見交換を行っている。家族に連絡したり、意見をお聞かしている。来られない家族には月に1回以上は必ず近況報告を行っている。面会時に状況を伝え、意見を聞いている。	家族等の意見、要望を話しやすい環境を作り、一緒に支えていく関係を築いている。家族会時に「認知症について基本的な理解」等の座学を開催している。毎月の「なつぎ塾便り」は孫、ひ孫までに喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の定期的面談や必要な時はその都度話し合う時間を持っている。また、面談や職員会議等を通じて疑問・提案等話し合い、意見要望を聞いたり、意見交換を行い反映させている	入居者に「サービスについて」のアンケートを行い、職員で話し合い、運営に取り入れている。健康器具「スチームフットスパ」を購入する等対応した。法人全体会で事例発表する機会を設け、職員のレベル向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リーダー、管理者、代表者の面接を通して職員の勤務状況の把握や仕事に対する目標を定め、向上心を持って働けるように職場の環境条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加したり、内部研修に参加したり職員のレベル向上に力を入れている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やグループホーム協議会の研修の参加等、情報交換の場を作り、サービスの質の向上に努めている。実習生・研修生など積極的に受け入れ、取り組んでいる(新しい情報を得ると共に他の事業所の良いところを発見しホームの向上に努めている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者や家族にお話をお聞きし生活状況の把握、不安や要望を聞き取りコミュニケーションを積極的に図り、本氏の思いをくみ取りケアにいかし、信頼関係作りに励んでいる。センター方式シート等で本人の言葉や思いを具体的に記入している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所することについて本人はどのように思っているのか。ご家族様は本人にどのように生活して欲しいか等把握するよう努力している。面会時に要望を聞いたり、電話で確認したりし信頼関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様のバックグラウンドや出来ること出来ないことの把握。情報を共有し、どのようなものが良いかご提案したり、利用者、家族に選択して頂き対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望する暮らしを最優先に考え利用者にとっての楽しみを共有できるよう尊厳を大切に、安心した生活ができるように努めている。スタッフの分からないこと等積極的に入居者に尋ねたり共に生活していることをお互いに感じている。対等な立場で人生の先輩としてケアを行っている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会や行事に参加して頂き、家族との交流が途切れないようにしている。来所されないご家族様にも最低でも1ヶ月に1度は連絡し、生活の状況を説明し信頼関係作りに努めている。電話した時に本人と家族が話せるよう努めている。月に1回お便りを送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1度の行事にご家族様に参加して頂いたり、行きつけの美容院や訪問マッサージなど利用し関係が途切れないよう努めている。友人の面会、教会に出掛けたり、月に1回家族と外泊したり馴染みの関係を続けている	誕生会等の行事に家族に参加して頂くよう声がけをしている。家族の誕生日にバースデーカードを送ったり、敬老の日のプレゼントのお礼の手紙を書く、盆と正月に外泊、教会に行く等関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に楽しく過ごせるような席の配置にしたり、孤立しないよう支援している。必要があればスタッフが介入しトラブルを防ぎ良好な関係作りに努めている。趣味など一緒に楽しく出かけるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関係が終わらないよう電話で確認し相談支援に努めている。入所先の見舞をしこれまでの関係性を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどうしたいのかを希望を聞き、本人からの入手が難しい場合、家族に聞いて職員同士で情報共有しケアプラン作りを行っている。ケースカンファレンス、ミニカンファ、気付きシート、センター方式シートの作成(ケアプラン更新ごと)等を用いて情報を把握し、支援にいかしている	日々のケアの中で入居者のふと漏らした言葉や職員が気付いた事を書きとめ、ボードに貼って、夜勤者が気付きノートに記載して共有している。「関東煮が食べたい」との方に誕生日に作って大変喜ばれる等対応した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドの把握やセンター方式シートを家族に記入して頂いたり、本人や家族に聞いて付け足すなどして更新している。入居者の入居前の趣味や好み等をその都度、本人・家族に聞いている。生活環境も入居前の暮らしに近づけるよう取り組んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミニカンファレンスやケースカンファレンス等でスタッフ全員と共有している。ケース記録や日誌での把握・申し送りでの確認を常に行っている。さらにヒヤリハットの記入や気付きシートにより詳しく情報を得ている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員が話し合い、現在の状況に合わせたケアプラン作りに努めている。ミニカンファ・ケースカンファレンスで職員間で情報の共有を行っている。健康的に問題のある方には主治医に相談しながら話し合いをし、ケアプランに活かしている	月1回のモニタリング、リスク管理表、医療記録、ケース記録を基に3ヶ月毎に見直し、年2回介護計画書を作成している。状況に変化があった時はその都度見直しをしている。家族に説明、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌やケース記録、チェック表を使用し個別の記録を細かく残している。また気付きシートやヒヤリハットに挙げられたものをミニカンファレンスシートに実践・結果を記入し、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の言葉をよく聞いて、利用者様のニーズを把握し、実現できるように努力している。訪問マッサージや美容室(床屋)などがある。その他にも個別の買物支援や美術館などの外出支援を職員が連携し、どうすれば行けるか等を話し合い、支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	仮設住宅の運動教室に参加したり、散歩や買物、地域の行事(夏祭りやコンサート等)への参加。行きつけの美容院や花屋に買い物に行ったり、仮設の方々と一緒に畑に収穫したりして楽しめる支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を実施し、24時間体制になっているので夜間帯に状態変化があった時は連絡できる体制が整っている。日中も連絡できる体制になっている。個別に診療が必要な場合は必ず家族に了解を得ている。状態によって訪問歯科も利用している	全員が協力医の往診を月2回受けている。週1回は訪問看護師による健康管理をしている。緊急時の医療連携体制は整備されている。受診結果は往診記録、看護記録に記載して職員全員に周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問看護で必ず変化があれば報告し、緊急性がある場合は看護師と連絡する体制がある。緊急の場合はすぐに駆けつけてくれる。情報連絡表を必ず渡し、気になる点など話し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や医師との相談を密に行い、本人にとって適切な入退院が出来るよう努めている。医師や看護師、相談員と面談し、早期退院できるよう努めている。また、本人とこまめに面会し、状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約する時に本人やご家族様に看取りについてやインフォームドコンセントの説明をして、同意を得てから入居して頂いている。入居者様の状態に変化があった場合には医師、看護師、ご家族様、本人とスタッフが話し合い、支え方についての再確認をしている	「看取りと重度化に関する指針 同意書」は成文化され、入所時に本人、家族に説明している。看取りの経験はある。医療連携体制は整っており、状況の変化に伴い段階的に話し合っており、できるだけ家族の要望に沿って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置研修を受けたり、勉強会に参加し実践力を身に付けている。消防署の救命救急の講習会に参加している。実践できるかは不安感がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1度の避難訓練(夜間想定)や風水も含めて行い反省会など開き、入居者の意見を聞きながら、情報を共有している。運営推進会議などで地域の方々に見てもらうなど取り組んでいる	年中計画に沿って、火災、地震、風水害の避難訓練を毎月実施している。連合会長への緊急時連携は整備されている。避難済みの札を居室入口の上に取り付けた、非常口等は指さして正確に伝える等話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人一人尊厳を大切にプライバシー尊重の取り決めに沿って支援している。利用者の羞恥心に配慮しトイレの声かけなどを行っている。人生の先輩として敬意の気持ちを持って接している。	トイレ誘導の声かけは耳元でそっとする。言葉使いやトーンに気を付けている。職員全員はマニュアルを基に「倫理規定について」「個人を尊重します」の研修を年2回受講し、プライバシーを損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉や行動から希望や願いを汲み取れるよう努力している。自己決定できるように声かけの内容を一人一人にあった方法で行い、本人本位のケアに努めている。バックグラウンドを把握し自己決定に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを把握してその日をどのように過ごしたいのか聞いて、その時の気持ちを尊重しスタッフ主体ではなく、利用者様一人一人希望に沿った支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性では髭剃りや女性では毎日化粧をされる方もいたり、好きな洋服を選んで着たり、おしゃれを楽しんでいる。2ヶ月に1回美容院や訪問理容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたいものや季節の食材をレシピに取り入れ栄養バランスに考慮しながら作成している。苦手なメニューがあれば他の食材を出したり臨機応変に行っている。食事作りや後片付けなど力を発揮できるように支援している	献立表は栄養士が確認し、コメントを頂いている。食材は入居者と一緒に買いに行く。刺身の塊りやイカは姿のまま買い、包丁で切る、皮をむく、盛り付ける等一緒に作って食べる楽しみの工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士にメニューの助言をもらったり、その人に応じた食事の提供を行っている。食事量・水分量を個別に毎日チェックし本人に合わせ確保するよう対応している(声掛け、促しを努めている)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後、就寝前に口腔ケアの声掛けをしたり、対応している。口腔拒否のある利用者にはうがいをして頂いたり臨機応変に対応している。義歯の洗浄、舌のブラッシングも行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援を大事にその人に合った排泄パターンを把握し支援に努めている。変化があればミニカンファレンスにてその都度、その時にあった対応を考えている。退院後にオムツだったがパットに変わった。日中は失禁がよように誘導している	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導の声かけをし、全員がトイレで排泄をしている。一人ひとりの尿量を1ヶ月間測り、パッドの大きさ、あて方等を業者の研修会に参加し、その方に合ったパッドを検討し使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やさつま芋、ごぼう等お通じに良い食物を使用したり、味噌汁にオリーブオイルを入れたり、カスピカヨーグルトの提供。運動教室、ラジオ体操、オリジナルの軽体操、散歩等を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間入浴や好きなお音楽を聞きながら入浴したり、個々に支援をしている。シャワー浴や清拭、足浴にでも対応している。希望により、毎日、入られている入居者もいる	拒否のある方には、コミュニケーションをとりながら、根気よく声かけをしている。必ず1対1で対応し安全に入浴を楽しんで頂いている。晩酌を楽しみに夕食後に入る方もいる。ゆず湯、入浴剤で気分を変える工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠出来るよう日中の活動量を増やしたり、日々の状態に合わせて昼寝するなど臨機応変に対応している。寝付けない方には話を傾聴したり暖かい飲み物を出して安眠できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ボックスやリスク管理ファイルに一人一人の薬の処方箋を入れ、皆で目を通して。お薬手帳に薬の効用の書いてあるシールを職員が順番に貼り、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフは常に利用者様のバックグラウンドを把握し、生け花をしたり、趣味で生け花や習字、裁縫などを行ったり、毎週コーラが好きで購入されたり、その人にあった支援に努めている。ドライブや散歩等気分転換の支援を行っている。外食支援なども行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに参加したり、家族と行事の参加で紅葉ドライブや七夕見学などしたり、買い物に出掛けたり対応している。毎週、家族と教会に出掛ける利用者もいる	年中行事として花見(名取)、七夕祭り、紅葉狩り(定義山)等季節を感じる外出をしている。日常的には買い物、散歩、中庭でおしゃべり、日向ぼっこ等をし、ホーム敷地内の花畑や野菜畑には毎日のように様子を見に行き、水やりや収穫を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている方は買い物の際にご自身で払って頂いている。立替にて本人の希望に応じていつでも使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持している入居者も入る。電話の希望がある際には対応している。ご家族様から電話があった時は入居者様に代わって頂いている。年賀状等直筆で書いて頂いて対応している入居者様もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には金魚の水槽を置き、えさやり等をしてもらっている。花瓶等に季節の花を生けたり、テーブルに飾ったり出来るだけご自宅の家庭環境に近づけている。居室の温度チェックをしたり自分で光の調整出来ない方にはカーテンの調節したりしている	入居者が造った花畑「Nガーデン」のコスモスや菊の花をホールに飾り、季節感を取り入れている。ユニット間にある中庭に自由に出入りし、入居者手作りのテーブルを置き、椅子に腰かけたり、畑に行ったり、洗濯物を干す等生活感に溢れ、思い思いに快適に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士の席の配置にしたり、ご自身で居室に行き、くつろいでいる。畳のスペースやソファにても自分の過ごしたい場所でゆっくりくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅にあったもの、馴染みのものをホームにもってきて居心地のよい生活を送れるようにしている。好きなお花など飾ったりと楽しんでいる	居室入口に大きな字の表札が掲げられている。整理ボックスやテーブル等馴染みの物が持ち込まれ、家族の写真が飾られ、畳に布団、ベッド等その人らしく居心地の良い部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは本人にやって頂き出来ないことは職員と一緒にこなしている。安全に生活できるように把握し自立した生活が送れるよう工夫している。毎日一回の危険箇所チェックを通し安全の確認を行っている。生活しやすいように扉や物に札を付けたり理解しやすいように工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300089		
法人名	株式会社 リブレ		
事業所名	グループホーム なつぎ塾	ユニット名	いぶき
所在地	〒982-0007 宮城県仙台市太白区あすと長町4-3-25		
自己評価作成日	平成 25年 10月 20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成25年 11月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天気の良い日には両ユニットが中庭へ出てラジオ体操を行い身体を動かしている。ラジオ体操後はそのまま10時のお茶会が始まりユニット間の交流を図っている。一般仮設住宅、郡山町内会の行事への参加や逆になつぎ塾での行事にも参加して頂くなど日常的に交流を図っている。一日一回は外の空気を吸い光を浴びて生活リズムを作っている。また一人ひとりが自分の持っている力を発揮して安心して楽しみのある生活ができるよう、個別の趣味、散歩やドライブ、畑やガーデニング、買物や生花、書道など本人のバックグラウンドに沿った場面や機会を提供し、その中で本人自身がやりたい事や希望を選択できるようにし、日々の生活に取り入れていることで生き活きた生活を過ごしている。職員は前向きに考え、皆で色々話し合い出来る雰囲気があり、研修にも進んで参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

来春に新築される事業所を、入居者と一緒に見学に行き楽しみにしている。広い敷地内にある畑を同じく被災した一般仮設住宅の方に半分を使って頂き、水やりや収穫等交流の場としている。毎週の体操教室や町内会の行事に参加、ホームの敬老会や秋祭りには家族、地域住民、ボランティアの140人程の参加があり、地域との繋がりは良好である。職員は常時メモ用紙を持ち歩き、入居者の言葉や動作等を書き留め「気づきシート」としてカンファレンスをし、支援に活かしている。家族アンケートに「誠心誠意本人の気持ちを考えて対応してくれています」とある。協力医との連携、看護師との24時間オンコール体制と医療の面でも安心できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム なつぎ埜)「ユニット名 いぶき 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年スタッフ全員で意見を出し合い、ユニット理念を作成している。玄関や事務所等に掲示し、日々意識して業務に入るよう心がけている。朝の申し送りの中で、会社理念を唱和している。	事業所理念「ゆっくり いっしょに たのしく ゆたかに」から心に思いつくまの言葉を寄せ合って、話し合い各ユニット理念を作成している。毎年3月に振り返り、理念がケアに反映されているか確認し次年度に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の畑での交流や、町内会で行われた七夕作りや夏祭りへの参加、事業所で行われる秋祭りへ参加し余興を披露して下さった。また、仮設住宅の方から畑で採れた野菜を頂く事もある。	畑の半分を仮設住宅の方が利用し、毎日顔を合わせている。仮設の週1回の体操教室に参加している。ホームで毎年開催する敬老会や秋祭り等の案内状を、入居者と一緒に一軒一軒配布する等交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩中等に地域の方とできるだけ挨拶や会話し理解を保っている。また、月1回、手作りのなつぎ埜便りを作成して地域や家族に配り、なつぎ埜の様子を発信している。介護相談のお知らせをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	選べる方は服を選んで頂き、難しい方には目線や表情などから読み取れるよう努め、その人らしい装いができるよう心掛けている。また、定期的な訪問美容や、美容院や床屋に行くなど利用者が決定している。	連合会長、自治会長、包括支援センター職員、家族、入居者の参加で奇数月に開催している。包括支援センターの催し物の情報報告、町内会の行事の誘い、ホームの行事の誘いや現状報告等双方向的に話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市や県庁から施設見学される機会が多くあり、その都度ホーム内のケアなどを見て頂き、取組みを伝えている。また事故報告をする際も連絡を取り合い、より良いケアに活かせるようにしている。	介護保険の諸手続きや事故報告等、担当者に相談、助言を頂いている。実施指導やホームの新築移転に伴う打ち合わせ等連携を密にしている。市や県の研修会、包括支援センターの勉強会には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、職員への周知徹底に努め、身体拘束をしないケアを職員全員で取り組んでいる。また、身体拘束についての外部研修に参加し知識と意識を高めている。事務所にも身体拘束防止についてのポスターを貼っている。	職員は身体拘束の内容とその弊害を理解し、日々のケアに努めている。気分転換で敷地内を出歩く方には、声かけする等して見守りを行っている。研修委員会があり、月1回「利用者の尊厳を奪わないケア」「なぜ身体拘束はいけなのか」等の勉強会をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を行い、職員への周知徹底に努め職員全員で絶対に虐待をしない取組みをしている。また、虐待防止についての外部研修に参加し知識と意識を高めている。事務所にも虐待防止についてのポスターを貼っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を定期、随時行い、職員への周知徹底に努めている。また、権利擁護についての外部研修に参加し知識と意識を高めている。研修の伝達を早期に行い共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にご本人の不安や生活歴、ご家族様の不安などをしっかりと把握するため、センター方式を用いて時間を重ね十分に話し合いをしてから契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には笑顔で挨拶をし、誠意を持って対応するよう努めている。面会の際は必ず状態を伝え、家族の満足も聞いている。思いや要望は家族面談記録簿に記入し職員同士で情報の共有を行い、思いや要望に応えられるよう努めている。	家族等の意見、要望を話しやすい環境を作り、一緒に支えていく関係を築いている。家族会時に「認知症について基本的な理解」等の座学を開催している。毎月の「なつぎ埜便り」は孫、ひ孫までに喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の定期的面談の他、必要に応じて個別面談の機会を設けている。職員会議や何かあった場合にはその都度、意見や提案を聞くようにしている。介護技術勉強会を実施した。	入居者に「サービスについて」のアンケートを行い、職員で話し合い、運営に取り入れている。健康器具「スチームフットスパ」を購入する等対応した。法人全体会で事例発表する機会を設け、職員のレベル向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回行い、勤務状況や個人の目標などを把握している。やりがいをもって仕事を行えるように自己評価表等を活用して、次のステップを目指せるようにアドバイスを受けながら目標を立て実践している。また、より責任感をもって仕事ができるように委員会や居室担当等を決めて		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や、外部研修の参加を促し、認知症の理解やアクティビティー、介護技術向上の外部の研修をしている。介護福祉士、介護支援専門員などの資格取得勉強会の実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やグループホーム協議会等の研修に参加し、情報交換を行っている。また交換研修としてお互いの職員を派遣し、サービスの質の向上を図っている。(交換研修)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にバックグラウンド等で把握した上で本人が困っている事や、なにを望んでいるのかなどを傾聴し、信頼関係を構築し一人一人に合った対応をしている。また、センター方式を用いて、今までの生活歴に近くなるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がどんな事を不安に思っているか話せるようコミュニケーションの時間を多く持っている。信頼関係の構築のため、初期の段階の連絡を密にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望や本人の要望、心身の状態を観察し、家族に状況と支援の報告をしている。家族、本人に判断してもらい、その時に合ったサービス利用へ移行できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を人生の先輩と尊敬し、一人一人の役割や思いを理解するよう努めている。どうしたいか、どうすればいいか相談し、その人らしい生活が一緒に楽しく送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはゆっくりと話ができる環境を作るよう心掛け、写真やケース記録を用いて日々の様子を伝えるようにしている。行事の際は家族に連絡し参加の声掛けをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係性が継続して行けるよう、家族や知人の方との面会時間を大切に、ゆっくりと過ごして頂ける為に居室に案内し、お茶をお持ちするようにしている。馴染みの場には、要望を聞いてドライブで行ってみたいしている。	誕生会等の行事に家族に参加して頂くよう声がけをしている。家族の誕生日にバースデーカードを送ったり、敬老の日のプレゼントのお礼の手紙を書く、盆と正月に外泊、教会に行く等関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関わりを大事にし、活動の中でコミュニケーションが上手く取れるよう職員が間に入って話題を振ったり、分かりやすいよう説明し孤立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方(亡くなった方)特に震災で亡くなった方に対して3.11やお盆等の節目に連絡を取り、家庭を訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言葉や行動から本人の希望や思いに常に耳を傾け把握できるよう努めている。職員同士で共有できるよう、ケース記録や気付きシートに記入しカンファレンスやミニカンファレンスで検討し、実現できるよう努めている。	日々のケアの中で入居者のふと漏らした言葉や職員が気付いた事を書きとめ、ボードに貼って、夜勤者が気付きノートに記載して共有している。「関東煮が食べたい」との方に誕生日に作って大変喜ばれる等対応した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞いて生活環境の把握に努め、その人の暮らしかたを尊重していくように努めている。また、日々の生活の中で発見した情報なども大切に、職員間で共有し、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の思いを尊重し、どう過ごしたいか決めて頂き、今できる力を最大限に生かせるよう努めている。心身状態は常に変化するので日誌や連絡ノート、気付きシートを活用して職員間で共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の気づきシートやミニカンファレンス、月一回の職員会議で課題についての意見やアイデアを出し合い統一ケアに活かし、本人がより良く暮らせるよう努めている。	月1回のモニタリング、リスク管理表、医療記録、ケース記録を基に3ヶ月毎に見直し、年2回介護計画書を作成している。状況に変化があった時はその都度見直しをしている。家族に説明、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に個別のケアポイントを記入し、毎日のケアに取り組んでいる。その日のケアポイントを実際に行ってみてどうだったかをケース記録に記入するようにしており、利用者の言った言葉をそのまま記入し、ケアプランに反映しやすいようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望を大事にし、現在行っている美容室や訪問歯科、訪問マッサージ等を行い、都度ニーズが出た時はどうしたら実現できるか職員間で話し合い、ニーズに沿えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一般仮設住宅の方々との畑での作業やお互いの行事に参加したり、町内会の行事にも参加して交流している。週3回のの食材買い物にも利用者と一緒にやっている。また、その他の買物にも利用者と一緒にやっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で往診か、かかりつけ医かを選択し決定している。月2回の往診日には往診記録に必要な事、不安な事を記入し、助言や指導を受けて適切なケアに繋がるよう努めている。その時の身体状況によっては専門医を受診する事している。	全員が協力医の往診を月2回受けている。週1回は訪問看護師による健康管理をしている。緊急時の医療連携体制は整備されている。受診結果は往診記録、看護記録に記載して職員全員に周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化を見逃さないようにし、訪問看護師に電話またはファックスによって報告し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は主治医やご家族様と連携を取り、情報交換を行っている。また、職員へも正しい情報が共有できるよう努めている。何度もお見舞いに行かせて頂いている。退院後も安心して生活が送れる環境を整えるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	インフォームドコンセントや看取りについて、入所時から同意書により本人や家族の思いや意向を記入している。その時の状態や時期に合わせてその都度医療と連携し話し合いの場を都度設けている。	「看取りと重度化に関する指針 同意書」は成文化され、入所時に本人、家族に説明している。看取りの経験はある。医療連携体制は整っており、状況の変化に伴い段階的に話し合っており、できるだけ家族の要望に沿って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応やAEDの勉強会を行い、実践力を身に付けられるよう努めている。緊急時ファイルや連絡網を整備し対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した避難訓練を毎月1回行っている。避難訓練後には利用者様と一緒に反省会を開き、意見や反省点を話す機会を設け避難について意識を高めている。また、運営推進会議の際に避難訓練を行い、町内会長、地域包括支援センターの方から意見をだして頂き、改善し	年中計画に沿って、火災、地震、風水害の避難訓練を毎月実施している。連合会長への緊急時連携は整備されている。避難済みの札を居室入口の上に取り付けた、非常口等は指さして正確に伝える等話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であるという事を職員全員が認識し尊敬の気持ちを持って接している。プライバシー尊重の取り決めを主に支援している。特に排泄、入浴に配慮している。	トイレ誘導の声がけは耳元でそっとする。言葉使いやトーンに気を付けている。職員全員はマニュアルを基に「倫理規定について」「個人を尊重します」の研修を年2回受講し、プライバシーを損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張の少ない方には表情や仕草から想いを把握している、意思を表出できるよう声掛けを行っている。思いや希望を言える環境作りを心掛け、本人が何をしたいのか聞き、一人一人の希望に沿った生活を送れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「どうしたいですか」「どうしたらいいですか」の声掛けをしている。自己選択、自己決定できる環境を作れるよう努めている。職員間で協力体制をとり、なるべくニーズに答えられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方は服を選んで頂き、難しい方には目線や表情などから読み取れるよう努め、その人らしい装いができるよう心掛けている。また、定期的な訪問美容や、美容院や床屋に行くなど利用者が決定している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間が楽しくなるよう、一緒に調理をできる方には手伝って頂いている。季節の物、利用者様の食べたい物を聞いて献立に取り入れるようにしている。畑の野菜と一緒に収穫しそのまま調理に使用したり、魚を丸々買ってきて利用者に捌いてもらい新鮮な物を提供している。	献立表は栄養士が確認し、コメントを頂いている。食材は入居者と一緒に行き、刺身の塊りやイカは姿のまま買い、包丁で切る、皮をむく、盛り付ける等一緒に作って食べる楽しみの工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調に合わせた量や切り方など配慮している。水分量や食事量はチェック表に記入して把握するようにし、摂取量が少ない利用者には本人の好きな物で補ってもらえるようにしている。(ゼリー等)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、毎食後の口腔ケアに努めているが、拒否があつてできない利用者様には食後に緑茶ゼリーを提供し、少しでも口腔内の清潔が保持できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在おむつを使用している方はいなく、トイレ誘導を行い、全員がトイレでの排尿を目指している。パットを使用する際は一番適切な物を選ぶよう、パットのメーカーから講師を呼んで指導して頂いたり、漏れが多い時はパットの当て方について勉強会を開いたり、話合っている。	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導の声がけをし、全員がトイレで排泄をしている。一人ひとりの尿量を1ヶ月間測り、パットの大きさ、あて方等を業者の研修会に参加し、その方に合ったパッドを検討し使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面では毎朝の牛乳、10時のカスピ海ヨーグルト、味噌汁にはオリーブ油、ご飯には棒寒天を入れ提供している。また、日々の体操や運動を行い、薬には頼らない自力排便ができるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望時間にできるだけ添った入浴をして頂けるようにしている。拒否がある方にはタイミングや時間、職員を変えて声掛けしたり、足浴やシャワー浴などで対応している。また、利用者様の羞恥心に配慮し、なるべく同性介助にて入浴して頂くようにしている。	拒否のある方には、コミュニケーションをとりながら、根気よく声がけをしている。必ず1対1で対応し安全に入浴を楽しんで頂いている。晩酌を楽しみに夕食後に入る方もいる。ゆず湯、入浴剤で気分を変える工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその日の体調を考慮して、ソファで休んで頂いたり、居室にて横になって頂けるよう声掛けしている。また、夜間のスムーズな眠りを促すために、無理なく日中の活動を行い、安心して気持ちよく眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の一覧表を作成し、服薬セットにミスがないよう、名前、日付、服薬時間のチェックを行っている。服薬して頂く時も職員同士で、声に出してチェックするようにしている。個人の薬箱に薬の説明書を保管し、効果や副作用の把握に努めている。薬の拒否が強い方は、粉末にしてもらいゼリーに混ぜて服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	どのように生活したら日々を楽しく過ごすことができるのか一緒に探り、実践に繋がれるように努めている。また、仙台市のシルバー創作展へ作品を出展し来年へ向けての創作意欲がでている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物やドライブの希望があれば行くようにし、季節の行事等に行く際はご家族の協力が得られるようにしている。また、外食や展覧会、地域のコンサートなど楽しみのある生活を送れるよう努めている。	年中行事として花見(名取)、七夕祭り、紅葉狩り(定義山)等季節を感じる外出をしている。日常的には買い物、散歩、中庭でおしゃべり、日向ぼっこ等をし、ホーム敷地内の花畑や野菜畑には毎日のように様子を見に行き、水やりや収穫を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理されている方が3名いるので、紛失に注意したり、定期的にお金を一緒に確認して本人の出納帳に記入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話がしたいという方には、いつでも電話でできるようにしている。自分で携帯電話を管理している方もいる。息子様の誕生日に手紙を書いた際に、息子様からお礼の手紙が届いたり、敬老の日にお孫様からプレゼントが届くと、お礼の手紙を書いた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に活けた花や緑を多く飾ったり、貼り絵等で季節感を大事にしたホーム作りに努めている。一人一人が快適に過ごせるように光や音に注意し、毎日午前と午後居室の温度と湿度をチェックしている。	入居者が造った花畑「Nガーデン」のコスモスや菊の花をホールに飾り、季節感を取り入れている。ユニット間にある中庭に自由に入出入りし、入居者手作りのテーブルを置き、椅子に腰かけたり、畑に行ったり、洗濯物を干す等生活感に溢れ、思い思いに快適に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室のソファに座ってテレビを見たり、洗濯物をたたんだり、談笑の場となっている。また、席を移動して一つのテーブルを囲んでお茶を飲んだり、折り紙や調理作りなどを行っている。中庭でもお茶を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には使い慣れ物や好みの物を持ってきてもらっている。手紙や写真を飾ったり本人が居心地良く過ごせるよう努めている。	居室入口に大きな字の表札が掲げられている。整理ボックスやテーブル等馴染みの物が持ち込まれ、家族の写真が飾られ、畳に布団、ベッド等その人らしく居心地の良い部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎月、危険箇所のチェックを行い安全に過ごして頂けるよう努めている。心身の状態に合わせてベッドの位置を変更し自立した生活が送れるようにしている。		